



アクサ投資型年金<米ドル建> (ロールアップ&ラチェット型)

死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・遡増保険金額併用型)付
変額個人年金保険(米ドル建)

2019年度(令和元年度) 特別勘定の現況 (アクサ・アロケーションファンド50)

2019年度(令和元年度)決算のお知らせ

投資対象となる投資信託

EQ・アロケーションファンド50

2020年5月1日より当該特別勘定の投資対象となる投資信託の名称が「アクサ・アロケーションファンド50」から「EQ・アロケーションファンド50」に変更されました。
また、当該投資信託が投資しているマザーファンドの名称も2020年5月1日より「アクサ・モデルポート・ファンド」から「EQ・モデルポート・ファンド」に変更されました。
当該変更による運用方針の変更はございません。
なお、特別勘定名の変更はありません。

【運用会社】 エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シー

エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シーは、米国大手生命保険会社の一つであるエクイタブル・フィナンシャル・ライフ・インシュアランス・カンパニーの投資顧問業務を行う部門が同社の完全子会社として発足した会社で、2012年2月より、当商品組入れ投資信託の運用会社となりました。

当運用会社は資産クラスごとの基本投資配分比率を決定するとともに、資産クラスごとの副運用会社を選定・モニタリングするマネージャーオブマネージャー方式の運用会社です。

※2020年6月15日より、運用会社の名称が「AXAエクイタブル・ファンド・マネジメント・グループ・エル・エル・シー」から「エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シー」に変更されました。

- ・アクサ生命保険株式会社の「アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型)」死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・遡増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「商品パンフレット」「特に重要なお知らせ(契約概要・注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型) 特別勘定の現況(2020年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型)」死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・増増保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「商品パンフレット」「特に重要なお知らせ(契約概要・注意喚起情報)」「ご契約のしおり/約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

特別勘定(アクサ・アロケーションファンド50)の運用方針

特別勘定名	アクサ・アロケーションファンド50
投資対象となる投資信託	EQ・アロケーションファンド50
投資信託の運用会社	エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シー
投資信託の運用方針	当ファンドは、マザーファンドである「EQ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド」(以下「EQ・モデレート・ファンド」と言います)に100%投資することにより、信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。 マザーファンドの基本投資配分比率は、主に米国株式50%、米国債券50%とします。 主なリスクとして、株式の価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク等があります。
ベンチマーク*	株式部分(割合50%) : S&P500 インデックス 債券部分(割合50%) : ブルームバーグ・バークレイズ米国総合インデックス

*当ファンドが100%投資するマザーファンドである「EQ・モデレート・ファンド」のベンチマークです。

特別勘定(アクサ・アロケーションファンド50)の投資状況 [2020年3月31日現在]

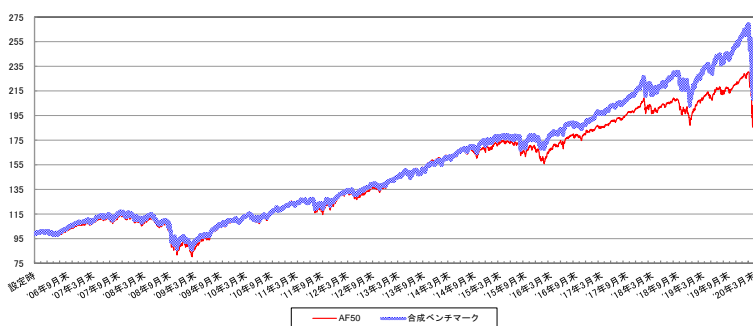
投資状況	
	時価合計(米ドル)
投資信託受益証券	224,161,878.76
合計(純資産総額)	224,161,878.76

運用資産		
銘柄	時価合計(米ドル)	投資比率(%)
EQ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド	224,161,878.76	100.00

純資産総額計算書	
I. 資産総額(米ドル)	224,161,878.76
II. 負債総額(米ドル)	0.00
III. 純資産総額(I - II)(米ドル)	224,161,878.76
IV. 発行済口数(ユニット口数)	11,198,015.724

ユニットプライスの推移

※グラフは投資信託の運用開始時(2006. 2. 1)を100として指数化しております。



ユニットプライス(1口当たり)	
小数点以下第5位四捨五入	
今月末	前月末
20.1566 米ドル	21.8038 米ドル

ユニットプライス騰落率(%)		
小数点以下第3位四捨五入		
直近1ヶ月	直近1年	運用開始来
△7.55%	△3.58%	101.57%

- *投資信託受益証券時価合計に現金等が含まれる場合、銘柄の時価合計との差額が生じることがあります。
- *ユニットプライスとは、特別勘定資産のユニット口数「1口」あたりの価格のことをいい、単位は「米ドル」です。投資信託の運用開始時を基準(10,000)とし、以後、投資信託の運用実績を反映して日々変動します。
- *ユニットプライスは、運用関係費控除後のプライスです。なお、保険契約の積立金額から、別途、保険契約管理費を控除(ユニット口数に反映)しておりますので、ユニットプライスの推移と保険契約の積立金額の推移は異なります。
- *ユニットプライス騰落率は、それぞれの期間をさかのぼった該当月の月末のユニットプライスに対して、今月末のユニットプライスがどれくらい変動したかを計算したものです。
- *合成ベンチマークとは、「EQ・アロケーションファンド50(ベビーファンド)」が100%投資する「EQ・モデレート・ファンド(マザーファンド)」のベンチマークであるS&P500 インデックスとブルームバーグ・バークレイズ米国総合インデックスへ50%ずつ投資したと仮定して計算しています。

アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型) 特別勘定の現況(2020年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型)」死亡給付金最低保証特約(最大契約当日積立金額・増補保険金額併用型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「商品パンフレット」「特に重要なお知らせ(契約概要・注意喚起情報)」「ご契約のしおり/約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

市場コメント・マザーファンド(EQ・モデレート・ファンド*)運用コメント

*EQ・モデレート・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「EQ・アロケーションファンド50」が100%投資しているマザーファンドです。

市場コメント

<マーケット概況>

2019年4-6月期に、FRBは景気拡大の維持のために適切な行動をとることを示唆し、緩和的な姿勢を示しました。ECBも同様に、金利引き下げまたは量的緩和という形で追加の刺激策を講じる準備をしていると示唆しました。安全資産とリスク性資産は、世界的な金融緩和の見込みから市場環境が改善されたため、回復しました。市場心理が四半期全体を通じて世界的な貿易摩擦の動向に左右された中でも、S&P 500指数は史上最高値を更新し信用スプレッドは概ね縮小しました。

2019年7-9月期は、8月に貿易摩擦の激化がリスク性資産の価格急落とソブリン債への需要の急増を引き起こしたことに象徴されるように、金融市場が地政学的な不確実性に左右されたことが特徴的でした。しかし投資家の懸念は四半期の終わりに向かうにつれ解消され、結果として市場は一時的に回復しました。

2019年10-12月期を通じて、米中通商協議における「第一段階」の合意に対する楽観的な見方が経済指標の悪化への懸念を上回り、リスク選好度を押し上げました。世界経済の指標は引き続き強弱が入り混じったままでしたが、通商協議が年末にかけて市場心理の改善を後押しし続け、米国株式が史上最高値で取引を終え、信用スプレッドが縮小し、米ドルが下がるなど、リスク性資産が高いリターンをあげて1年を締めくくりました。一方、市民の不安と政治的不確実性は世界中の様々な地域で残り続けました。

2020年1-3月期は、中国の湖北省で発生した新型コロナウイルスCOVID-19が、感染者数の急増や世界各国への急速な感染拡大により、金融市場の話題の中心となりました。需要やサプライチェーンの混乱など、すでに脆弱であった経済成長の原動力に対する悪影響への不安が大多数のリスク性資産の市場に対する下押し圧力となり、投資家はソブリン債の安全性を求めるようになりました。

四半期を通じて、米国債は全ての年限で金利低下し、先進国の金利も運動して低下しました。原油市場へのショックが新型コロナウイルスによる懸念を悪化させたため、期待インフレ率も低下しました。景気敏感業種の信用スプレッドは拡大し、2019年の安定した市場環境での信用スプレッドの縮小のほとんどを元に戻しました。特に低格付け企業ではこの動きが顕著でした。

マザーファンド(EQ・モデレート・ファンド)運用コメント

<ポートフォリオハイライト>

2019年4月1日~2020年3月末日について

2019年度末時点での当ファンドの資産クラス別組入れ比率は、債券が約51.1%、米国株式が48.9%でした。債券部分については[パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー]が運用を行っています。米国株式の運用会社は、大型成長株式については[ルーミス・セイレス・アンド・カンパニー・エル・ピー]、大型割安株式については[パロー、ハンリー、ミュールヒニー・アンド・ストラウス・インク]と、[ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー]、小型成長株式については[アライアンス・バーンスタイン・エルピー]、小型割安株式については[ガムコ・アセット・マネジメント・インク]で構成されています。

2019年度のファンドリターンは-4.24%、ベンチマークのリターンは+1.21%でした。ベンチマークは、S&P 500指数に50%、ブルームバーグ・パークレイズ米国総合インデックスに50%投資したと仮定してそれぞれのリターンを加重平均した合成指数です。

<株式ポートフォリオハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

業種選択や銘柄選択によるポートフォリオへの目立ったプラス材料はありませんでした。特にパフォーマンスにプラスに寄与した銘柄は、Exxon Mobil Corporation(N)(エクソンモービル)、Boeing(N)(ボーイング)、Qualcomm Inc(クアルコム)、Regeneron Pharmaceuticals Inc.(リジェネロン・ファーマシューティカルズ)でした。

当年度パフォーマンスのマイナス材料

一般消費財・サービスセクターでの銘柄選択がマイナス寄与となりました。マイナス寄与が特に大きかった銘柄は、Under Armour Inc Class A(アンダーアーマー)、Norwegian Cruise Line Holdings Ltd.(ノルウェー・クルーズライン・ホールディングス)でした。情報技術セクターのアンダーウェイトと銘柄選択の両方がマイナス寄与となりました。マイナス寄与が特に大きかった銘柄は、Apple Inc.(アップル)、Microsoft Corporation(U)(マイクロソフト)でした。

<債券ポートフォリオハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

米国の金利戦略、米ドル建の新興国債券のアンダーウェイト、エージェンシーMBSへの配分がプラス材料となりました。

当年度パフォーマンスのマイナスまたは中立的な材料

米国物価連動国債の保有、高利回り社債への配分、証券化商品への配分がマイナスまたは中立的な材料となりました。

アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型) 特別勘定の現況(2020年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型)」死亡給付金最低保証特約(最大契約応当日積立金額・増増保険金額併用型)付 変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、エクイタブル・インベストメント・マネジメント・グループ・エル・エル・シーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「商品パンフレット」「特に重要なお知らせ(契約概要・注意喚起情報)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

マザーファンド(EQ・モデレート・ファンド*)のポートフォリオの状況[2020年3月31日現在(米国)]

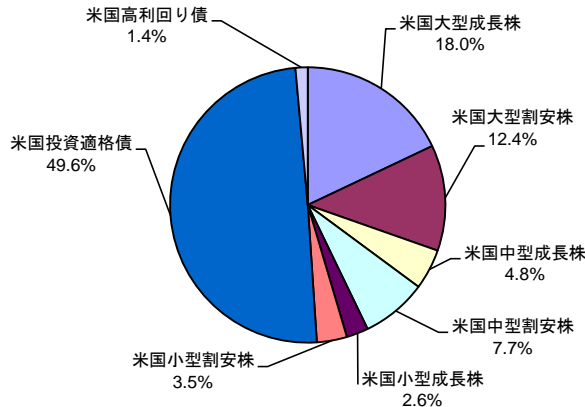
*EQ・モデレート・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「EQ・アロケーションファンド50」が100%投資しているマザーファンドです。

資産別の構成比率

*比率は小数点第2位四捨五入しております。純資産に基づき作成しております。

資産クラス	比率	主要投資対象	比率
米国大型成長株	18.0%	米国株式	48.9%
米国大型割安株	12.4%		
米国中型成長株	4.8%		
米国中型割安株	7.7%		
米国小型成長株	2.6%		
米国小型割安株	3.5%		
米国投資適格債	49.6%	米国債券	51.1%
米国高利回り債	1.4%		

(注)比率は種類別の時価金額(有価証券の買戻しに係る未払金控除後)の純資産総額に対する比率をいいます。



組入上位銘柄

(対純資産総額比率)

米国株式等		組入比率	米国債券等		利率	償還日	組入比率
1	アマゾン・ドット・コム (Amazon.com, Inc.)	1.2%	1	ジニーメイ(連邦政府抵当金庫) TBA (TBA Government National Mortgage Association)	4.000%	2050年5月15日	5.0%
2	オラクル (Oracle Corporation)	1.1%	2	ユニホーム・モーゲージ担保証券 TBA (TBA Uniform Mortgage-Backed Security)	3.000%	2050年6月25日	3.7%
3	フェイスブック (Facebook Inc.)	1.1%	3	ユニホーム・モーゲージ担保証券 TBA (TBA Uniform Mortgage-Backed Security)	4.000%	2049年5月25日	3.5%
4	アリババ・グループ・ホールディング (Alibaba Group Holding Ltd.)	1.1%	4	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	1.875%	2022年7月31日	3.1%
5	Visa (Visa Inc.)	0.8%	5	ユニホーム・モーゲージ担保証券 TBA (TBA Uniform Mortgage-Backed Security)	2.500%	2050年6月25日	2.9%
6	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー (JPMorgan Chase & Co.)	0.8%	6	ユニホーム・モーゲージ担保証券 TBA (TBA Uniform Mortgage-Backed Security)	3.500%	2050年5月25日	2.8%
7	モンスター・ビバレッジ (Monster Beverage Corporation)	0.8%	7	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.125%	2024年9月30日	2.6%
8	マイクロソフト (Microsoft Corporation)	0.8%	8	ジニーメイ(連邦政府抵当金庫) TBA (TBA Government National Mortgage Association)	4.500%	2050年4月15日	1.7%
9	リジェネロン・ファーマシューティカルズ (Regeneron Pharmaceuticals, Inc.)	0.8%	9	ジニーメイ(連邦政府抵当金庫) TBA (TBA Government National Mortgage Association)	5.000%	2050年4月15日	1.6%
10	シスコ・システムズ (Cisco Systems Inc.)	0.7%	10	米国長期国債 (U.S. Treasury Bond)	3.125%	2043年2月15日	1.4%

組入銘柄数: 356

組入銘柄数: 241

業種別構成比

(対株式の資産時価総額比率)

米国株式	組入比率
1 資本財	11.3%
2 ソフトウェア・サービス	10.2%
3 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	8.7%
4 ヘルスケア機器・サービス	7.8%
5 小売	7.5%
6 メディア・娯楽	6.2%
7 各種金融	5.4%
8 銀行	4.5%
9 食品・飲料・タバコ	4.1%
10 消費者サービス	3.9%

(注)組入比率は株式の資産時価金額合計に対する業種別の資産時価金額の比率をいいます。

(注)TBA投資に伴う取引を考慮して算出しております。

TBA取引とは、モーゲージ・パススルー証券の売買の際に、発行機関、年限、クーポン、額面金額などを特定し、受渡しの対象となるプール(複数の住宅ローンをもとめたもの)は指定せずに行う先渡取引形態です。

アクサ投資型年金<米ドル建>(ロールアップ&ラチェット型)のリスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

○この保険は、積立金額および年金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの米ドル建の変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して主に米国株式・米国債券などで行なっており、株式および公社債の価格変動に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、年金額や払いもどし金額などのお受け取りになる金額の合計額が一時払保険料を下回る場合があります。

○このリスクはご契約者に帰属します。

【為替リスクについて】

○この保険は米ドル建ですので、外国為替相場の変動による影響を受けます。

- 年金や給付金などの受取時における外国為替相場によって円に換算した年金や給付金などの額が、ご契約時における外国為替相場によって円に換算した年金や給付金などの額を下回る場合があります。
- 受取時における外国為替相場によって円に換算した年金受取総額などが、払込時における外国為替相場によって円に換算した一時払保険料相当額を下回る場合があります。

○このリスクはご契約者および受取人に帰属します。

【諸費用について】

●この商品にかかる費用の合計額は、下記の各費用の合計額となります。
 <年金支払開始日前>※「終身死亡保障特則」を付加される場合も同様です。

項 目		費 用	ご負担いただく時期																						
保 険 約 管 理 費	死亡給付金の最低保証、災害死亡給付金のお支払い、ならびに、ご契約の締結および維持に必要な費用	特別勘定の積立金額に対して、 年率2.62%	毎日、積立金額から控除します。(ユニット数に反映します。)																						
運 用 関 係 費 (*2)	特別勘定の運用などに必要な費用で、特別勘定が投資対象とする投資信託の管理報酬等が含まれます。	年率1.5%以内 管理報酬等は、投資信託の純資産額に対して、年率1.5%以内となります。 (*1)	特別勘定にて利用する投資信託において、毎日、投資信託の純資産額から控除します。(ユニットプライスに反映します。)																						
解 約 控 除	解約払いもどし金のお支払いにおける控除	解約計算基準日における積立金額に解約日までの経過年数(1年未満切上げ)に応じた解約控除率を乗じた金額 <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr> <td>契約年数</td> <td>1年目</td> <td>2年目</td> <td>3年目</td> <td>4年目</td> <td>5年目</td> <td>6年目</td> <td>7年目</td> <td>8年目</td> <td>9年目</td> <td>10年目~</td> </tr> <tr> <td>解約控除率</td> <td>9%</td> <td>8%</td> <td>7%</td> <td>6%</td> <td>5%</td> <td>4%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> </table> ※無償引出限度額(解約日の属する保険年度の初日における積立金額(*3)の10%)と同額までの積立金額については、解約控除は適用されません。 *3解約日が契約日から1年以内の場合は一時払保険料とします。	契約年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目~	解約控除率	9%	8%	7%	6%	5%	4%	3%	2%	1%	0%	解約時に、積立金額から控除します。
契約年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目~															
解約控除率	9%	8%	7%	6%	5%	4%	3%	2%	1%	0%															

*1管理報酬等は、運用会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社への報酬・費用、その他の費用(監査法人報酬など)で、マザーファンドにおいて控除されます。
 その他お客さまにご負担いただく費用には、有価証券の売買手数料および保有する有価証券の配当などに対する源泉徴収税などの諸費用がありますが、運用資産額や取引量などによって変動するため費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することになります。

*2運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動などの理由により、将来変更となる可能性があります。
 ※お客さまがご負担いただく上記各費用の合計額は、お客さまのご契約内容によって異なるため、表示できません。

<年金支払開始日以後>

項 目	費 用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金額に対して、 1.0% ※将来変更となる可能性があります。	年金支払日に、責任準備金から控除します。

<「年金払特約」による年金をお受け取りいただく場合の年金支払開始日以後>

項 目	費 用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金額に対して、 1.0% ※記載の費用は上限です。将来変更となる可能性があります。	年金支払日に、責任準備金から控除します。

【年金や死亡給付金などを円通貨でお受け取りいただく場合(「円支払特約」を適用する場合)】

○TTMレート-40 銭の為替手数料がかかります。
 ※TTMレートは各換算基準日において所定の金融機関が公示する対顧客電信売買相場仲値(1日のうちに公示値の変更があった場合は、その日の最初の公示値)となります。なお、為替手数料は将来変更となることがあります。

【年金や死亡給付金などを米ドル通貨でお受け取りいただく場合】

○当社からの送金にかかる手数料は、お客さま(受取人)に負担していただきます。
 ※金額については、送金する金額や取扱金融機関によって異なるため、表示できません。

【その他留意事項について】

- 死亡給付金額には最低保証がありますが、年金額には最低保証はありません。
- ご契約の解約・積立金の一部引出をされた場合の払いもどし金額には最低保証はありません。